

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【算数】

1. 対象 2年生

九九を学習し、おおよその児童が九九を正しく言うことや、九九を使って問題を解くことが身に付いている。本単元では、本時までには乗法の筆算の仕方を身に付けるために2位数×1位数の計算の仕方について学んでいる。2位数×1位数の筆算に導くために、まとまりで考えたり、これまでのやり方を活用したりする見方・考え方を活用し、本時では3位数×1位数に取り組む。

2. 単元名 「ひっ算のしかたを考えよう」 (全10時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	乗法の計算が乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることや、(2.3位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算できる。
思考力, 判断力, 表現力等	(2.3位数)×(1位数)の計算の仕方を、具体物や図、式を用いて表現することができる。
学びに向かう力, 人間性等	乗法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

4. 本時の目標

(3位数)×(1位数)の計算の仕方について、既習事項を基に分かりやすく計算する方法を考える活動を通して、(3位数)×(1位数)の計算の仕方を理解し、計算することができる。

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

213円のケーキを3個買います。代金は全部でいくらになるでしょうか。

問: 213×3 はどうやって計算したらよいか。

考えるための材料

<ul style="list-style-type: none"> ・100円玉、10円玉、1円玉 ・ケーキの絵(情報共有アプリ) *計算の仕方を書き込むページに説明を表現できるようなケーキの写真や式を入れておく。 	単元の学習軌跡を提示した掲示物 (まとまりの計算の仕方、筆算の仕方)
<ul style="list-style-type: none"> ・お金を使うことにより、まとまりで考えるようになり、位ごと計算していく筆算と結び付けて考える。 ・2位数×1位数の計算方法と同じだということに気付く。 ・ケーキとお金という身近な具体物により実際の経験とつなぎ合わせて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数×1位数の計算で学んだ計算や筆算の方法を同じように活用できないか考える。 ・かけられる数が3位数に増えても、筆算の仕方は同じだということに気付く。

対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

自分の考えをICT機器やノート上で表現し、ペアでの対話活動を行う。数回のペアでの対話を行う中で、自分の考えを明確にし、かつ、友達の考えと比べて共通点に注目しながら対話していくことで、位ごと計算することが筆算に繋がっていくということへ理解を深めていく。(対話時間は15～20分ほどで、相手を変えていく。)

「 213×3 をそれぞれの位で計算して、その答えを足したよ。」

「2けた×1けたの筆算と同じように計算してみたよ。」

「どの方法も、位ごと計算しているよ。」

「確かに百の位が増えただけだから、筆算でできそうだね。」

「それぞれの位で計算することは、筆算と同じやり方だね。」

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

3けた×1けたの筆算も、これまでと同じようにできたから、これからかけられる数が増えても簡単に計算が出来そうだ。繰り上がりがなかったから、2けたの時みたいに繰り上がりのある筆算もやってみたい。(できるかもしれない。)